令和５年度　第１回三条市包括ケア推進会議
生活支援・介護予防検討部会　会議録

１　日　時　令和５年８月２日（水）午後７時から８時 40 分まで

２　会　場　三条市役所　第二庁舎 301 会議室

３　出席状況

(1) 出席委員

岡部委員、横山委員、南雲委員、足立委員、佐藤 拓委員、永井委員、
楡井委員、鍋嶋委員、阿部委員、渡辺委員、山﨑委員、佐藤 敏行委員

(2) 欠席委員

田代委員

(3) オブザーバー

地域包括支援センター下田　佐藤管理者
セカンドライフ応援ステーション　石黒コーディネーター

(4) 生活支援コーディネーター

栗林コーディネーター（嵐北）、阿部コーディネーター(嵐南)、
松平コーディネーター(東)、小越コーディネーター(栄)、
若桑コーディネーター(下田)

(5) 市関係部局

福祉課　木戸補佐

(6) 事務局

［地域包括ケア総合推進センター］
郷センター長、坂井次長、渡邉主査、栗林主任、草野主任、田口主任
［高齢介護課］
佐藤課長、竹田係長、鬼木主任、本間主任、長谷川主事

４　議題

(1)　令和５年度包括ケア推進会議の運営体制について

資料１に基づき説明

(2)　部会長の選任について

資料２に基づき説明、鍋嶋委員を部会長に指名

(3)　第８期介護保険事業計画における生活支援体制整備の取組の評価及び第９期計画における施策の方向性について

資料３に基づき説明

（質疑）

横　山　委　員：　P.8 有償ボランティアについて、令和２年度から増加しているが、第９期に向けて今後も増えていく状況なのか教えてほしい。また、「有償」の部分について、物価高騰がある中で、現在どの程度の謝礼が支払われており、今後どのような方向でもっていくのか教えてほしい。

事　　務　　局：　ボランティアを希望する登録者については少しずつ増加傾向にあり、今年度も登録者は増えて行く予定である。今年度はスーパーや薬局など日常の外出先で、チラシ配布などのＰＲ活動を行い、登録者増加に向けて取り組むこととしている。

有償ボランティアの謝礼金については、１回に付き原則 500 円の謝礼を支払っている。謝礼金は活動に対する対価というよりは交通費程度の謝礼として支払っているものであり、今後も金額については現行どおりの 500 円で進める予定である。

横　山　委　員：　今後も謝礼金は 500 円ということだが、再度検討すべきではないかと思う。

鍋 嶋 部 会 長：　セカンドライフ応援ステーションとして今後のボランティアの増加見込みはどうか。

石黒オブザーバー：　有償ボランティアは、夫婦での登録や友人知人からの紹介での登録が増えている。お金を稼ぐというよりは、社会に貢献するという意識が高い。登録することで人とつながりを持ち、集う場にもなっている。有償ボランティアで社会参加につなげていきたいと思う。ぜひ委員の皆さんからもボランティアの依頼をしていただきたいと思う。

南　雲　委　員：　セカンドライフ応援ステーションの登録者が多くいるが、アクティブに動いている方がどれくらいいるのか。

ボランティアが生活支援を行うサービスＢは、セカンドライフ応援ステーションとは別にボランティアを募って活動する方を増やすのか。

事　　務　　局：　セカンドライフ応援ステーションでアクティブに動かれている登録者の割合については具体的には把握していないが、登録者はセカンドライフの充実に向けて積極的に活動したい方がほとんどであるため、ボランティアを希望している登録者は概ね活動していると思っている。

サービスＢのボランティアについては、まだ検討段階であるが、第８期では高齢者等見守り事業で簡易的な生活支援を有償ボランティアが行ってきたが、対応できない生活支援があることが分かってきた。見守り事業とは別の形でセカンドライフ応援ステーションの有償ボランティアが生活支援の取組を行うのが良いのか、シルバー人材センターや地域たすけあいネットワークが行っている有償ボランティア的に仕事をされている方から協力をいただくのが良いのか、それぞれの団体とも相談させていただきながら第９期の３年間で検討していきたい。既存の資源を生かしながら、生活支援ニーズに応えられるように考えていきたい。

鍋嶋部会長：　新たなボランティアの検討について、現在、家事支援サービスをしている事業所として山崎委員はどうか。

山崎委員：　訪問型サービスＢを既存のたすけあい事業でと考えると、現在は柔軟に対応しているところで、全てを当てはめるのは難しいとは思うが、ケアマネジャーなどが関わってもらうことで色々なところが見えてくるのでありがたいと思う。

佐藤オブザーバー：　下田圏域の移動支援ニーズが多い。受診同行の要望も出ている。要支援者は介護保険では対応できないので、シルバー人材センターに依頼しているケースもある。事業で移動支援を検討してほしい。

佐藤拓委員：　有償ボランティアについて、何件程度の活動があるのか。

事務局：　令和４年度は、マッチング件数が年間で約 20,000 件である。

横山委員：　移動支援を現在ボランティアでされているのか。病院までの付き添いか、院内の付き添いか、診察室まで付き添うのか。

事務局：　有償ボランティアでは受診の付き添いまでは行っていない。現在は主にシルバー人材センターで対応している。

横山委員：　ボランティアの場合は他人なので、診察室までは入れないと思う。軽度認知症などの場合、家族の付き添いが求められると思うので、そのような課題を解決していくときめの細かいケアができると思う。

鍋嶋部会長：　訪問介護の担い手不足が根本にはあると思うが、訪問介護の実情としてはどうか。

永井委員：　訪問介護の通院は、ほとんど介護保険外の自費で行ってい

るが、利用は少ない。人材不足は感じているが、どうしていいかは分からない状況である。

佐藤　敏行委員：　P.3、P.8に「地域の見守り体制が整備している自治会数」とあるが、どういうことが実施されていると「整備している」と定義しているのか。

事　　務　　局：　指標としての定義は、集いの場がある自治会、老人クラブで見守り活動補助を受けている地区の自治会を計上しており、そのほかにも、生活支援コーディネーターが自治会長等から地域の実情を把握し、例えば自治会長と民生委員が密に連携して見守り体制ができている地区や、心配な世帯があれば班長から自治会長に連絡がいく体制ができている地区などを、支え合いの体制がある自治会として計上している。

佐藤　敏行委員：　新型コロナ禍で自治会の行事やＰＴＡ活動などが少なくなっている。地域としてはつながりを作っていきたいが、つながりづくりは若い世代が参加したくないという声が多い。もっと若い世代に、そういったことに関心を持って参加してもらえるにはどうしたらよいか考えているが、よい意見があれば教えてほしい。

事　　務　　局：　昨年度から高齢者だけでなく子育て世代も含めた一体的な地域づくりを進めており、支援者同士でつながりながら取り組んでいるところである。子育て世代のニーズを把握し、子育て世代の困っていることが地域でも解決していけると良いと思うので、生活支援コーディネーターが地域とつながりながら地域づくりをしていきたいと考えている。引き続きお願いしたい。

鍋嶋部会長：　一体的な地域づくりについて、障がい者への取組として更に進めてほしいことなど阿部委員どうか。

阿　部　委　員：　嵐南圏域では、まんなかテラスをやっており、障がい者数人が利用している。働きたい方で自信をつけたい方が、そこでのお手伝いを通じて自信をつけて就労につながったという例もある。すごく良い取組だと感じている。障がいのある人も高齢者も引きこもりの方もお手伝いに来ている。いろんな困難さがあるが、助けられる立場が助ける立場にもなるという活動をしているので、そういった活動がもっと増えると良い。まんなかテラスで作った段ボールハウスを障がいの入所施設や障がい児

の施設に寄付してもらった。障がい者、子育て世帯、高齢者と関わっており、こうした取組が広がるとよい。障がいがある方や引きこもりの方が支援の受け手から担い手になる取組が良いと思う。

(4)　第８期介護保険事業計画における自立支援・重度化防止及び介護予防推進の取組の評価並びに第９期計画における施策の方向性について

資料４に基づき説明

（質疑）

岡　部　委　員：　P.10 の口腔機能向上個別訪問事業について実施者のかかりつけ医とも連携をとりながら進めているのでとてもいい制度だと思うが、実施状況を見るととても数が少ない。新型コロナ禍の事情なのか。

事　　務　　局：　訪問事業については新型コロナ禍の影響もあり、訪問を嫌煙されることもあったと聞いている。実施者数が少なく、意識が高い方の手上げとなっているので、必要な方に事業を利用してもらえるよう積極的に事業の周知が必要と考えている。

鍋 嶋 部 会 長：　フレイルの改善という観点で、サービスＡ事業を行っている楡井委員どうか。

楡　井　委　員：　フレイルの改善について、意欲を持ってもらえるよう事業者も利用者と１対１で個別に状態を確認している。機能向上に当たって個人の精神的な状況を把握し、できる限り食事や家庭内の事情があっても気分を上げていくよう支援している。

横　山　委　員：　社会参加活動の頻度について、いずれも参加なしの方が多いとのことだが、集合型の参加という形でなくても、スマホ、ＩＣＴなどを活用した動画配信という形でも良いのではと思う。ＳＮＳ登録者数に伸び悩みがあったとのことだが、登録者数を増やす方策を検討すべきである。薬局経営者を対象にオンラインでのスポーツジム実施の勧誘があり、筋トレ等の動画を配信できるとのことであった。そういった動画配信の活用も検討いただきたい。

P.5 フレイルチェックについては、新型コロナ禍にもかかわらず多くの方に実施いただいている。高齢者に対しては、筋トレなどサルコペニア対策を具体的にやってはどうか。

フレイル啓発について、早期相談の周知だけでなく具体的に取り組めることを啓発してはどうか。

自立支援型地域ケア個別会議に関連し、広報さんじょうなどで介護保険の理念について理解を深めていただくよう周知を図る必要がある。

P.9のケアマネジメント報酬上乗せ補助について、更なる上乗せを考えていただきたい。

ずっと三条で生活して健康でいられるようにしていかなければと思うので、KDBシステムを活用して、フレイルになる前からの取組を子育て支援課や健康づくり課など他課と連携して進めてほしい。健康づくりと重度化防止の取組を検討していただきたい。

P.11の日常的な外出先での啓発活動に協力している薬局について、三条市内では1件だったかと思うので、後で数を教えてほしい。薬局も協力できればと思うのでよろしくお願いしたい。

南　雲　委　員：　フレイルチェックから支援機関につながった数が少ない。P.5で生活機能低下者は188人であるが、支援機関につながった人がいない。市ではその後を追っているのか。またつながらなかった理由は何か。

事　　務　　局：　個人の把握はしていない。理由としては参加者から集いの場で個別にチェックをしてその結果を把握されたくない、指摘されたくないという意向があった。集いの場全体の結果としては把握し、全体結果として集いの場にフィードバックしている。

P.5の生活支援低下者の188人は、個別相談の希望がない場合や支援機関につなぐ状況ではない場合がほとんどである。集いの場では、フレイルについての周知の場に留まっている。

南　雲　委　員：　短期集中予防サービスの利用者も少ない状況なので、フレイルチェックから支援機関にしっかりとつながると良い。集いの場へのフィードバックに留まっているのは、もったいない。集いの場から出たくない人も多いと思うので、集いの場において運動器へのアプローチもあると良い。

4　その他

次回の開催について、事務局から説明

5　閉会あいさつ

郷センター長

（午後８時 30 分閉会）